

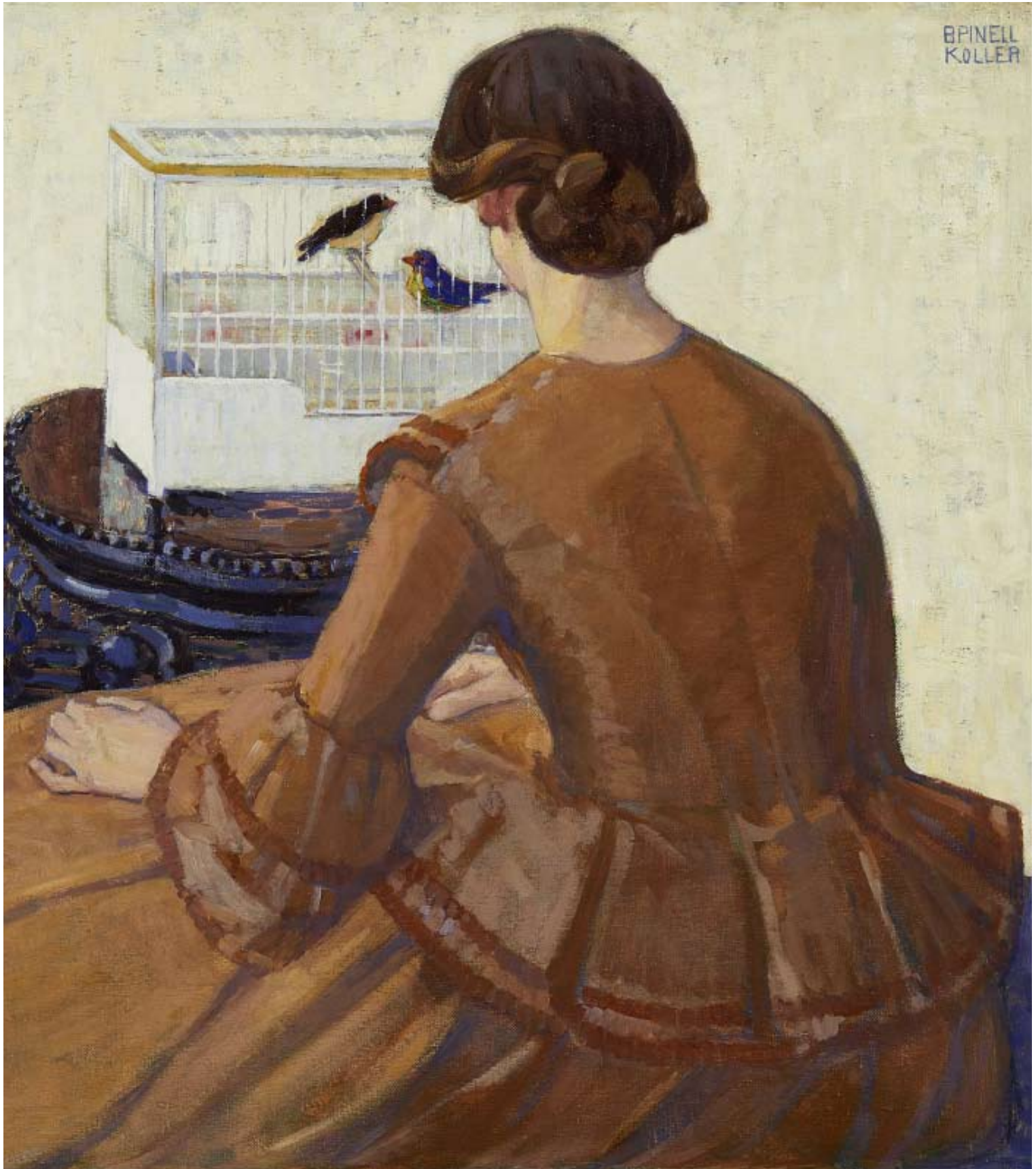
月刊 ウィーン

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 Nr. 367

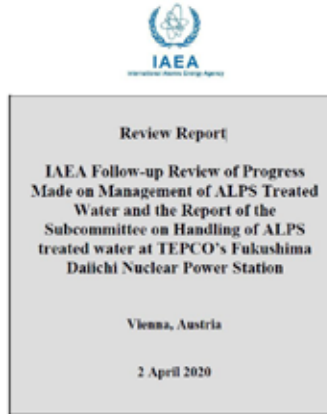
GEKKAN-WIEN 2020年5月号





杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 100

福島第一原子力発電所で発生する処理水の取扱いに関し、資源エネルギー庁の小委員会が二月に取りまとめた報告書に対するIAEA（国際原子力機関、本部はウィーン）によるレビュー報告書が四月二日に公表された。IAEA主催の核セキュリティ国際会議（二月一〇～一四日）に日本政府代表で出席した外務省の若宮健嗣大臣が、ラファエル・マリアーノ・グロツシー事務局長に小委員会報告書を手渡した後、レビューが行われていた。一方、IAEA



https://www.jaif.or.jp/journal/japan/2467.html

EAでは、二〇一八年十一月に福島第一原子力発電所の廃炉に関する第四回調査団を日本に派遣し助言を行っており、今回のレビュー報告書は、そのフォローアップとして位置付けられている。

福島第一原子力発電所では、原子炉建屋内の燃料デブリ冷却のため継続的に発生する汚染水を多核種除去設備（ALPS）により浄化処理しているが、取り除くことのできないトリチウムを含んだ処理水の取扱いが課題となっており、資源エネルギー庁の小委員会が議論が行われてきた。技術的な検討も踏まえ、同委が二月に取りまとめた報告書では、「実績があり現実的な方法」として海洋放出と水蒸気放出をあげ、いずれによっても「放射線の影響は自然被ばくと比較して十分に小さい」と評価。また、処理水の処分に関しては、これまでの事例を踏まえ「風評被害対策を拡充・強化すべき」としている。

今回のIAEAのレビュー報告書では、小委員会による議論について「科学的・技術的根拠に基づいている」とした上で、管理された状況下での水蒸気放出と海洋放出は「技術的に実施可能」と評価。また、処理水の処分実施に関し、「数十年に及ぶと予測される類をみない複雑な事案」と述べ、安全性のレビュー、規制機関の監督、モニタリングプログラム、全てのステークホルダーの適切な関与が必要などと指摘し、日本政府が処分方法を決定した際にもIAEA Aとして支援を図る姿勢を示している。

福島第一原子力発電所で発生する処理水を保管するタンクは二〇二二年夏頃に満杯となる見通しで、レビュー報告書でも「処分方針に関する決定は、すべてのステークホルダーの関与を得ながら喫緊になされる必要」と指摘。資源エネルギー庁では、今後政府として処理水の取扱い方針を決定するため、四月六日の福島市内開催を皮切りに「関係者の『意見を伺う場』」を予定している。

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の長寿企業（その三）について述べる。ウィーンの北、ヌストルフ駅からバスで十分分行ったラート通り沿いにある「ヴォルフ」は、一六〇九年創業の歴史的なホイリゲ（葡萄酒を有して自家製のワインを提供する居酒屋）である。店の裏にはワイン畑が広がっており、自家製の高級ワイン、素朴なウィーン料理、ケーキなどトップレベルのメルシユパイゼが人気を集めている。ザウアークラウトやビーツのサラダなどもなかなかいける。夏は広々としたガーデンで、他の季節には農家風に内装された快適な室内で、伝統の味を楽しむことができる。夜にはシランメルと呼ばれるオーストリアの民俗音楽を奏でる生演奏が入り、客のリクエストにも応じている。日本の曲もほとんどカバーしている。

輔（いちもんじやわすけ）は、一条天皇によって建立された今宮神社の旧参道にあり、あぶり餅だけを提供している。平安時代の一〇〇〇年（長保二年）創業で、飲食店としては我が国最古の老舗である。今宮神社の悪疫退散の祈願には竹が使われ餅が供えられた。初代がそれらを参拝者にふるまったか、あるいは初代が香隆寺の名物「おちかん（あぶり餅）」を今宮神社に奉納したのが始まりともいわれている。同店が提供するあぶり餅は一口大の餅を竹串に刺してきな粉をまぶして店頭で焼く。ほぼ同じようなあぶり餅を出す店が旧参道の向かいに立っている。北側の一文字屋和輔も南側の創業以来四百年の「かざりや」も本家を名乗っている。両市の長寿飲食店は、歴史と伝統に裏打ちされた味が共通している。

余談であるが、筆者はお客さんを連れてヴォルフで食事をしたことがある。店の棟がいくつかあり、うしろの葡萄園も相当広いことに驚いた。一文字屋和輔にも数年前に大学時代の友人達と訪れたことがある。創業がそれ程古いとは知らなかった。今月も両市の歴史的な長寿企業にまつわる話を紹介できた幸運に感謝しつつ、編集部に掲載させていただく。



■ 杉本純 元京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長

杉本純の原子力の話 II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています: <http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

オーストリアの新型コロナウイルス感染状況 2020年4月30日 22:00 現在

オーストリアでの検査数 25万6399名、感染確認 1万5453（ウィーン2489・住民10万人につき131）名、感染者比男性49%女性51%、病状者1961（ウィーン554）名、感染確認が陽性で入院せず1461名、使用可能な普通病床1万5081ベッド/使用372ベッド、使用可能な集中治療1012ベッド/使用128ベッド、届け出のあった死亡584/感染によると確認された死亡558（ウィーン129）名、死亡者比男性56%女性44%、回復1万2907（ウィーン1808）名 © Bundesministerium für Soziales, Gesundheit, Pflege und Konsumentenschutz

